



2017年3月期
(2016年4月1日～2017年3月31日)

決算説明会

2017年5月16日
ディービーエックス株式会社
証券コード：3079

目次

1. 当期のポイントと事業別業績概況	P3
2. 当期の決算概況	P11
3. 業績予想	P21
4. 取組み	P 24

1. 当期のポイントと事業別業績概況

当期のポイント

取り巻く環境

✓ 2016年4月に診療報酬が改定

当社の取扱商品に係る保険償還価格が全般的に引き下げられました。

⇒利益率低下の要因に。

✓ 社会保障制度改革の推進に向けた議論

⇒医療機器業界はもとより医療機関においても一層の経営効率化が求められています。

不整脈事業

✓ 既存顧客へのサービスの充実を図り新規顧客の開拓に注力

⇒西日本エリアでは京都・大阪などで新規顧客を開拓し売上増に貢献しました。

⇒東日本エリアにおいても新規顧客の獲得が進み売上増に貢献しました。

当期のポイント

虚血事業

✓ エキシマレーザ血管形成システムの販売拡大

⇒安定推移し、本体は12台を販売しました。

✓ 新商材獲得への注力

⇒エキシマレーザコロナリーカテテル（X-80）、リード抜去用シース（Glide Light）が商品ラインナップに加わりました。

⇒下肢末梢動脈治療用レーザカテテルの薬事申請に向けた治験を終了しましたが、PMDA臨床評価相談に基づき同治験結果をもって浅大腿動脈狭窄を適用として申請を行うのは困難と判断。海外治験結果を用い、下肢動脈留置ステント内狭窄を適用とする方針に変更し申請準備を進めました。

✓ 自動造影剤注入装置の独占販売契約が2016年12月末で終了

⇒ACIST社と2017年1月以降の移管業務に関する契約を締結。2017年1月1日から2017年5月31日までの間、従前の取引条件に変更のない独占販売店契約を締結。当期は従前どおりの販売を行いました。

事業別業績概況

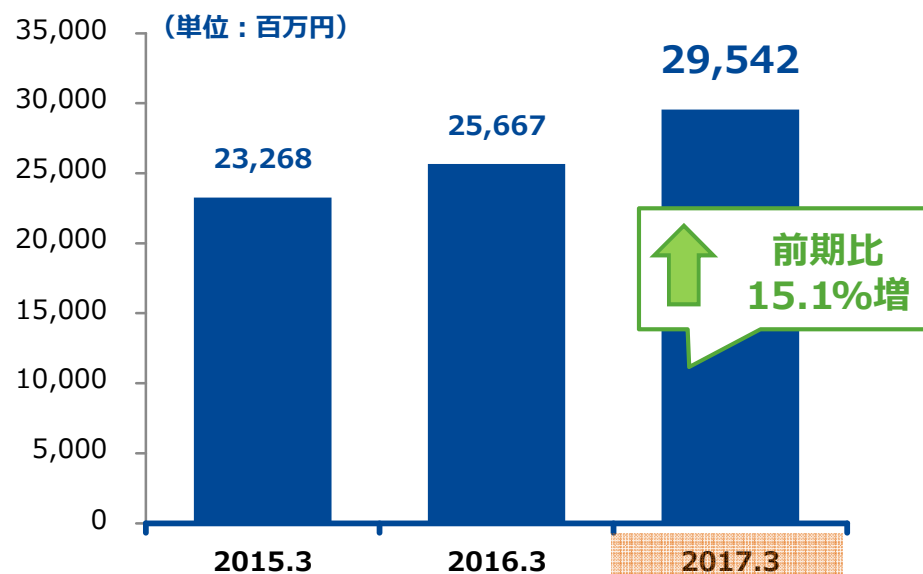
各事業の売上高、セグメント利益（粗利益） （2017年3月期）

（単位：百万円）

	売上高	前期比	セグメント利益 （粗利益）	前期比
不整脈事業	29,542	↑ 15.1%	3,645	↑ 3.8%
虚血事業	4,821	↓ 1.0%	1,553	↑ 12.1%
その他事業	902	↑ 8.5%	115	↑ 9.8%
合計	35,266	↑ 12.4%	5,314	↑ 6.2%

事業別業績概況

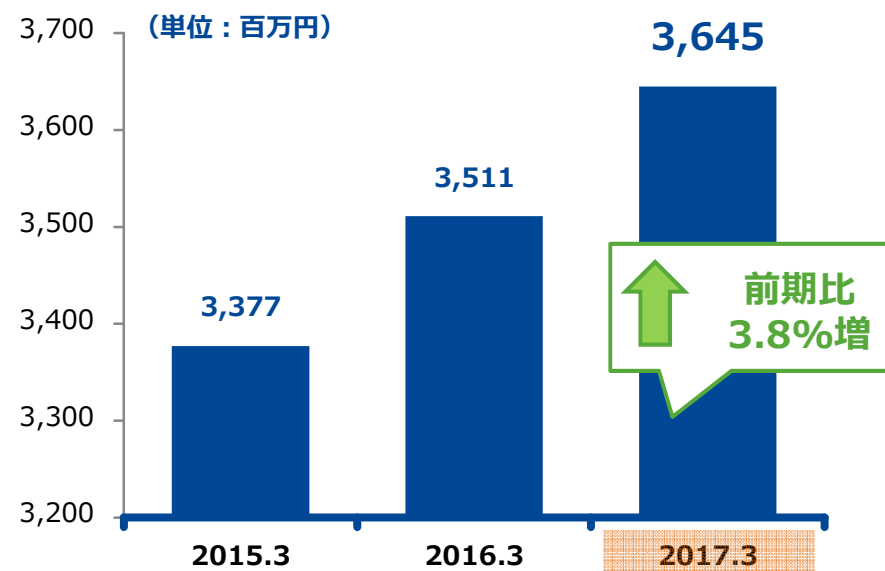
不整脈事業



売上高 **295.4億円**

(前期比 **15.1%増**)

- ✓ アブレーションカテーテル類、検査用電極カテーテル等の主力商品の販売数量増加



セグメント利益 **36.4億円**

(前期比 **3.8%増**)

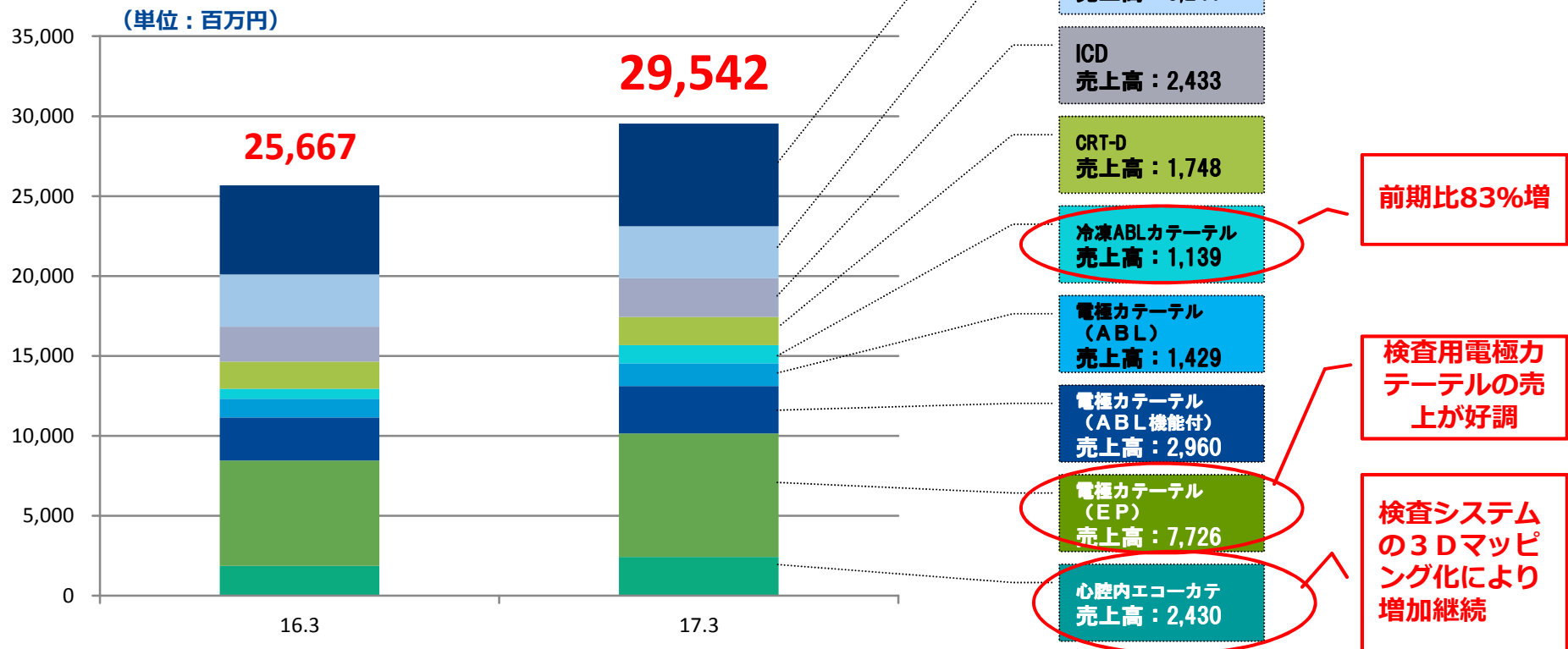
- ✓ 粗利益率は12.3% (前期は13.7%)

事業別業績概況

不整脈事業

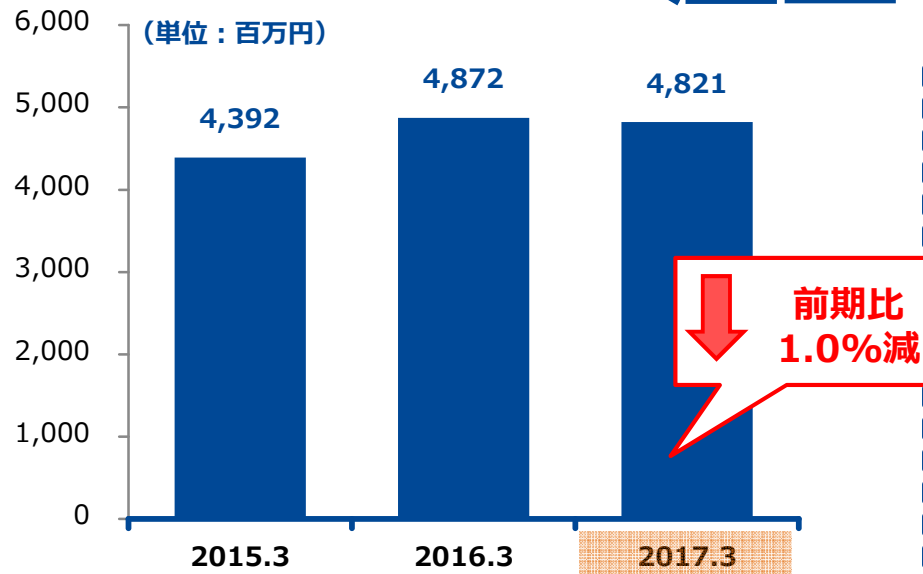
継続的な販売の拡大

⇒ 継続的な市場規模拡大に伴い販売が拡大中



事業別業績概況

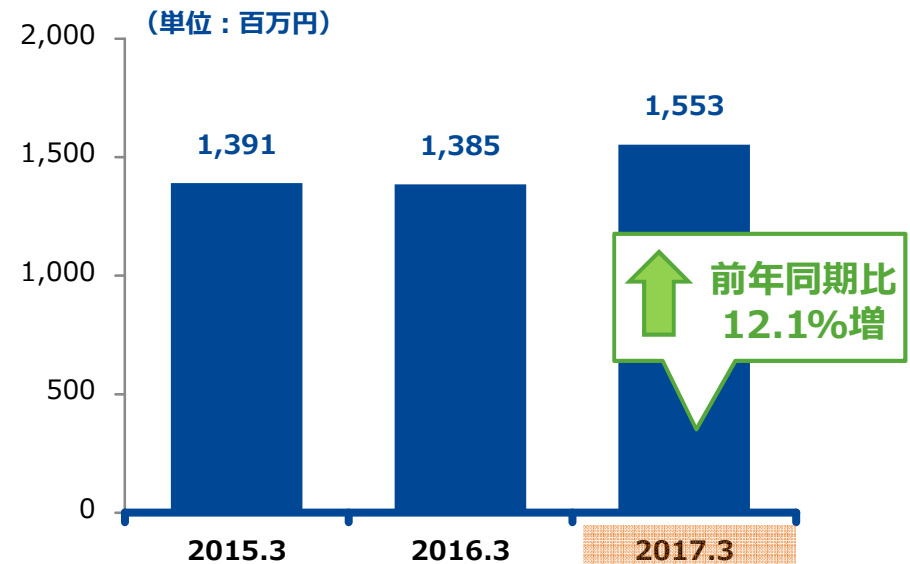
虚血事業



売上高 **48.2億円**

(前期比 **1.0%減**)

- ✓ エキシマレーザ血管形成システムの販売が堅調に推移
- ✓ 代理店業としての機器売りが、好調だった前期実績に届かず



セグメント利益 **15.5億円**

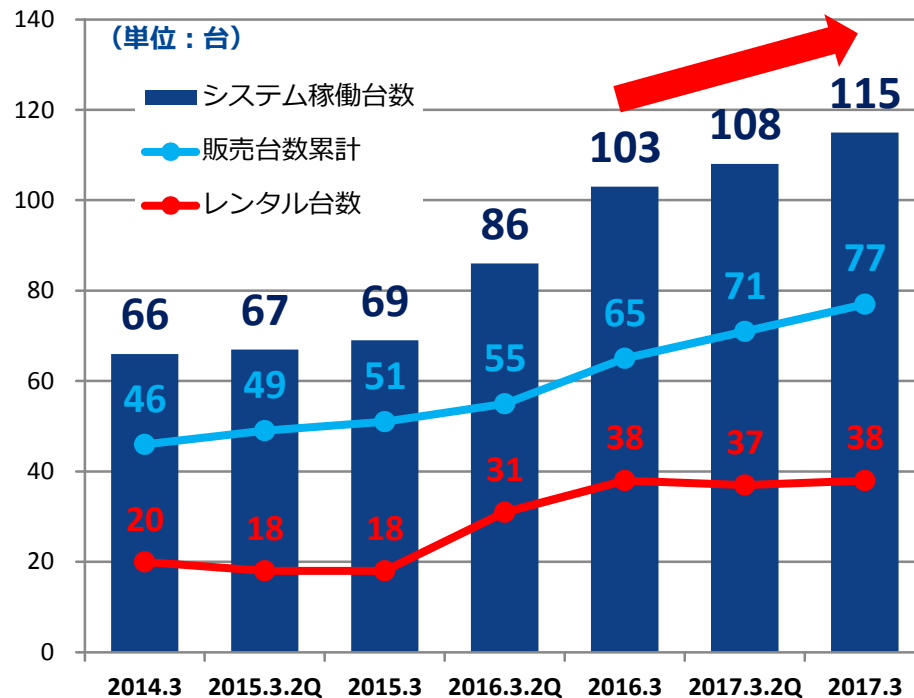
(前期比 **12.1%増**)

- ✓ 円高の影響により利益率が改善
- ✓ 粗利益率は32.2% (前期28.4%)

事業別業績概況

虚血事業

エキシマレーザ導入の推進



本体の販売台数が安定推移

(販売**12**台により
累計**115**台に)

新商品ラインナップ

- ✓ 0.9mm径で高出カタイプのコロナリーカテーテル (X-80) 販売開始 (2016年5月)
- ✓ 高出カタイプのリード抜去用シース (GlideLight) 販売開始 (2017年3月)
- ✓ 下肢末梢動脈治療用レーザカテーテルの薬事申請準備 (※)

※ 申請に向けた治験を終了したが、PMDA臨床評価相談に基づき同治験結果をもって浅大腿動脈狭窄を適用として申請を行うのは困難と判断。海外治験結果を用い、下肢動脈留置ステント内狭窄を適用とする方針に変更し申請準備を進めた。

2. 当期の決算概況

要約損益計算書 (2017年3月期)

(単位：百万円)

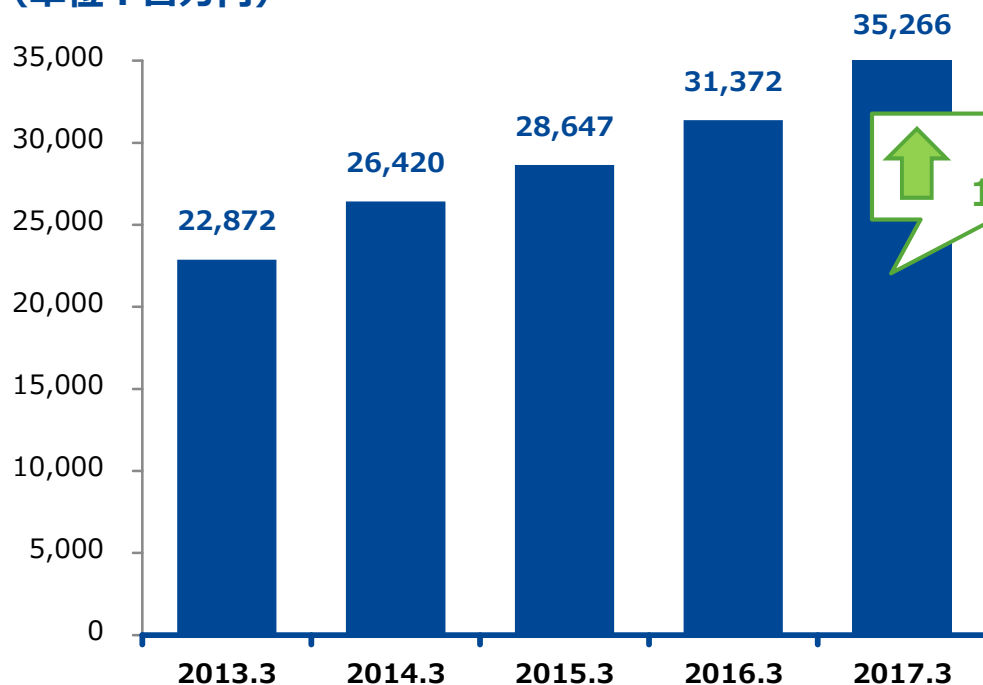
	前期 (2016年3月期)	百分率	当期 (2017年3月期)	百分率	増減率
売上高	31,372	100.0%	35,266	100.0%	+12.4%
売上総利益	5,002	15.9%	5,314	15.1%	+6.2%
販管費	3,509	11.2%	3,789	10.7%	+8.0%
営業利益	1,492	4.8%	1,524	4.3%	+2.2%
経常利益	1,460	4.7%	1,491	4.2%	+2.1%
当期純利益	1,289	4.1%	1,025	2.9%	-20.4% (※)

※ 前期に投資有価証券売却益による特別利益が発生したため。

売上高

前期比 **12.4%増** **352.6億円**

(単位 : 百万円)



主な要因

- ✓ 不整脈事業における主力商品 (※)の販売数量の増加

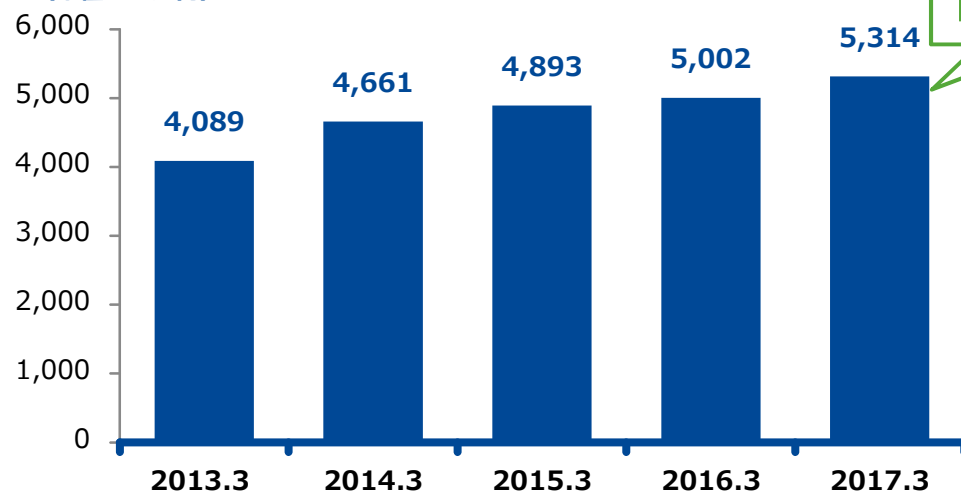
※ アブレーションカテーテル類、
検査用電極カテーテル等

- ✓ 虚血事業におけるエキシマ
レーザ血管形成システムの販
売が堅調に推移

売上総利益

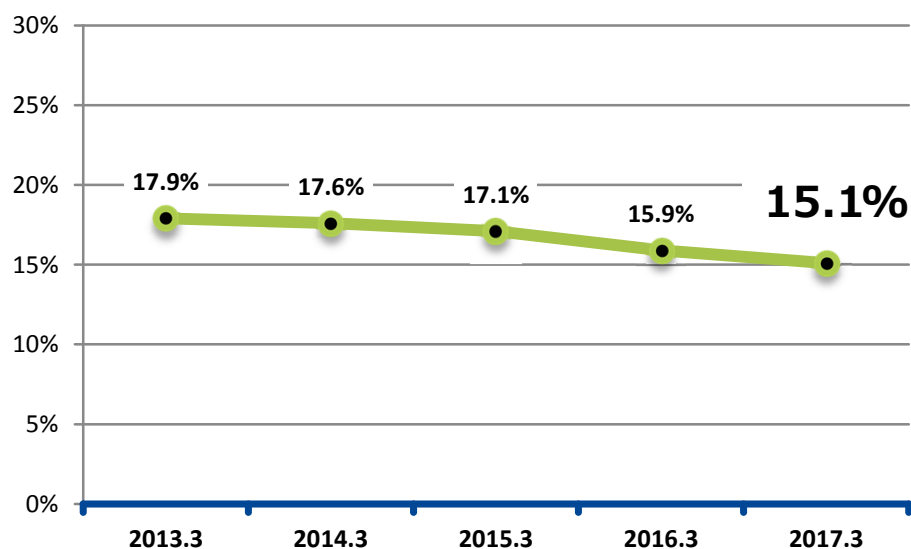
DVx デーブイエックス株式会社

(単位：百万円)



↑ 前期比
6.2%増

前期比 **6.2%増**
53.1億円



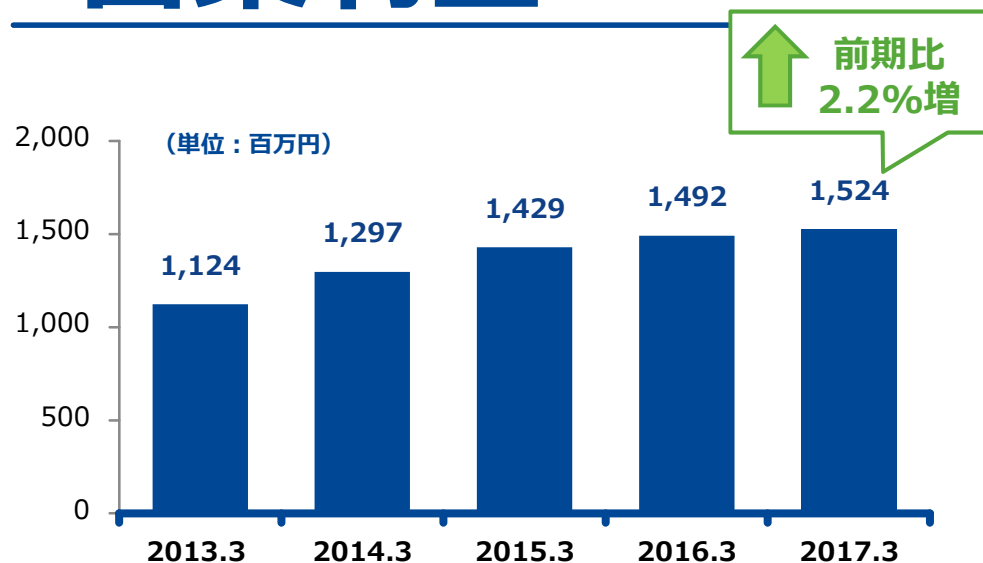
売上総利益率 = **15.1%**

15.9%から0.8ポイント低下

利益率低下要因

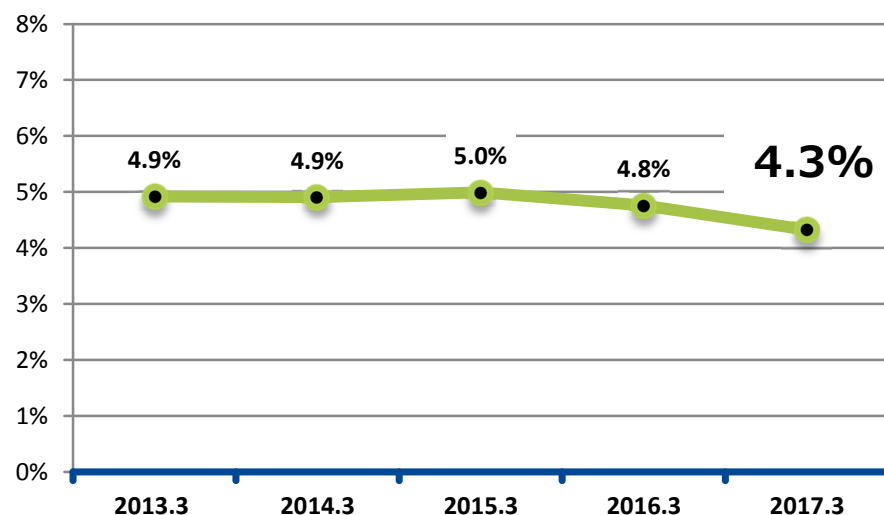
- ✓ 医療機関からの値下げ要求
- ✓ 不整脈事業における償還価格改定
- ✓ 新商品の仕入価格上昇の影響

営業利益



前期比 **2.2%増**
15.2億円

- ✓ 次頁「営業利益増減分析」ご参照
- ✓ 販管費は増加（前期比8.0%増）するも、販管費比率は11.2%から10.7%に低下。

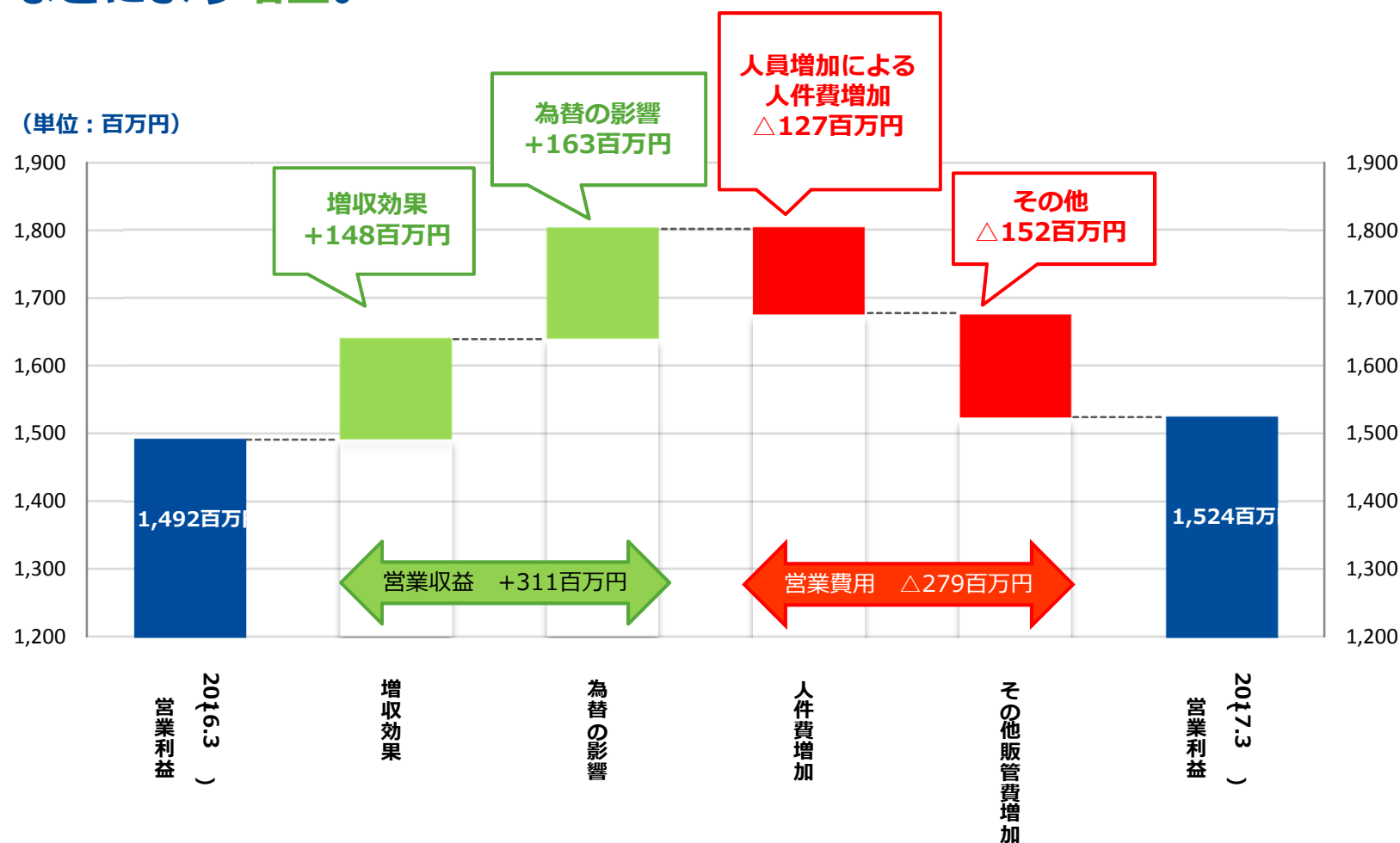


営業利益率 = **4.3%**

- ✓ 目標とする4%台の営業利益率を確保するも、売上総利益率の低下に伴い営業利益率も低下傾向。

営業利益増減分析

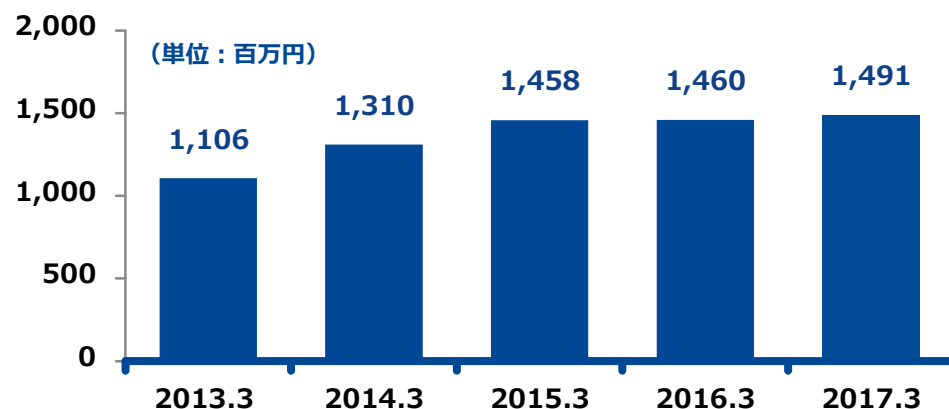
主力商品の販売数量増加により前期比増収。増収効果に加え為替の影響などにより増益。



経常利益・当期純利益

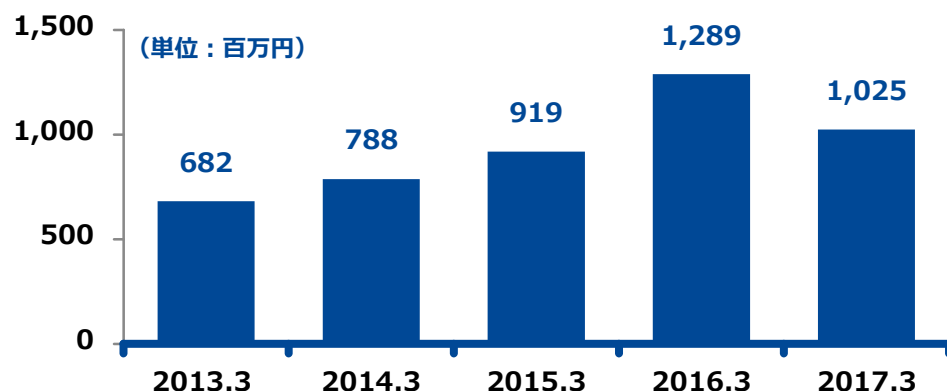
DVx デービーエックス株式会社

経常利益 前期比 **2.1%増** **14.9億円**



✓ ROA (総資産経常利益率) **9.5%**

当期純利益 前期比 **20.4%減** **10.2億円**



✓ ROE (自己資本当期純利益率) **16.1%**

主な減益要因

✓ 前期に投資有価証券売却益による特別利益が発生したため。

要約貸借対照表

(単位：百万円)

	前期末 (2016年3月31日)	当期末 (2017年3月31日)	構成比	増減	主な増減要因
流動資産	14,142	15,378	93.9%	+8.7%	● 通常の営業活動による現金及び預金の増加 (6.9億円) ● 売上高増加に伴う売掛金の増加 (2.9億円)
固定資産	883	1,002	6.1%	+13.5%	● 営業用資産の購入による工具、器具及び備品の増加 (0.6億円) ● 差入保証金の増加 (0.5億円)
資産合計	15,026	16,381	100.0%	+9.0%	
流動負債	8,716	9,295	56.7%	+6.6%	● 仕入高増加に伴う買掛金の増加 (9.3億円) ● 法人税納付による未払法人税等の減少 (2.8億円)
固定負債	308	317	1.9%	+3.0%	● 退職給付引当金の増加 (0.2億円) ● 長期借入金の減少 (0.2億円)
負債合計	9,024	9,613	58.7%	+6.5%	
純資産	6,001	6,768	41.3%	+12.8%	● 当期純利益による増加 (10.2億円) ● 配当金の支払いによる減少 (2.5億円)
負債純資産合計	15,026	16,381	100.0%	+9.0%	

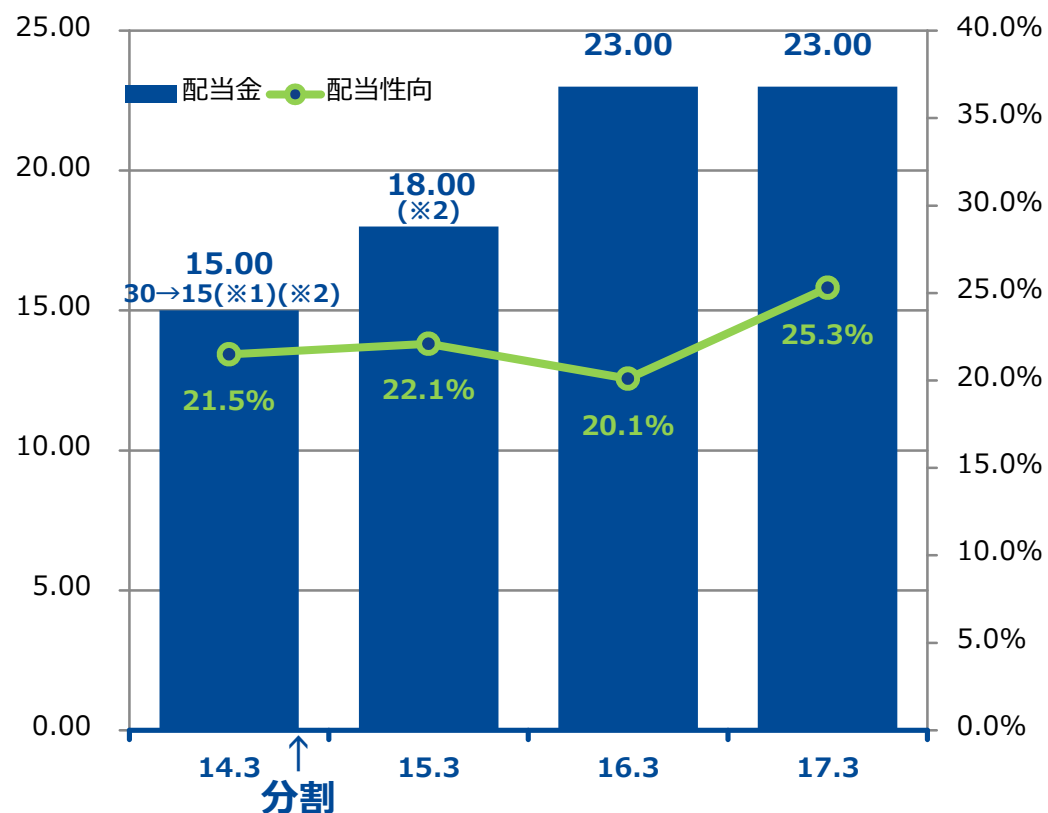
キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

	前期 (2016年3月期)	当期 (2017年3月期)	増減	主な収入・支出
営業活動による キャッシュ・フロー	1,311	1,152	▲159	+税引前当期純利益 (14.9億円) +減価償却費 (1.4億円) +仕入債務増加 (9.3億円) ▲売上債権増加 (3.8億円) ▲法人税等の支払 (7.3億円) など
投資活動による キャッシュ・フロー	327	▲136	▲463	▲有形固定資産取得 (1.2億円) ▲差入保証金の差入 (0.5億円) +投資有価証券売却 (0.5億円) など
財務活動による キャッシュ・フロー	▲240	▲295	▲55	+長期借入れ (0.3億円) ▲長期借入金の返済 (0.6億円) ▲配当金の支払 (2.5億円) など
現金及び現金同等物の 増減額	1,384	697		
現金及び現金同等物の 期首残高	3,292	4,677		
現金及び現金同等物の 期末残高	4,677	5,375		

2017年3月期 配当

(単位：円)



期末配当 **23円**
(配当性向**25.3%**)

✓ 2017年3月期より
配当性向25%に基本方針変更

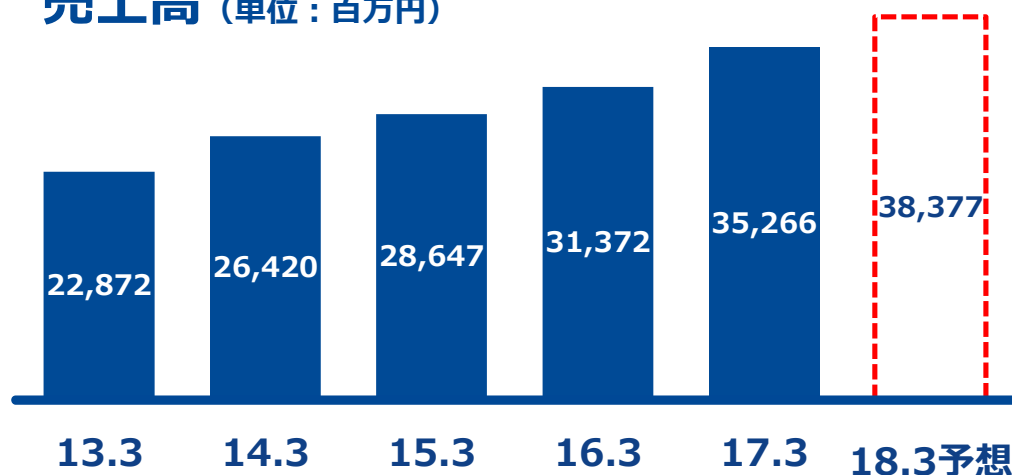
- ※1 2014年4月1日に実施した1:2株式分割の影響を考慮
- ※2 2014年3月期および2015年3月期には記念配当1円を含む

3. 業績予想

2018年3月期 業績予想

DVx ディーブイエックス株式会社

売上高 (単位：百万円)

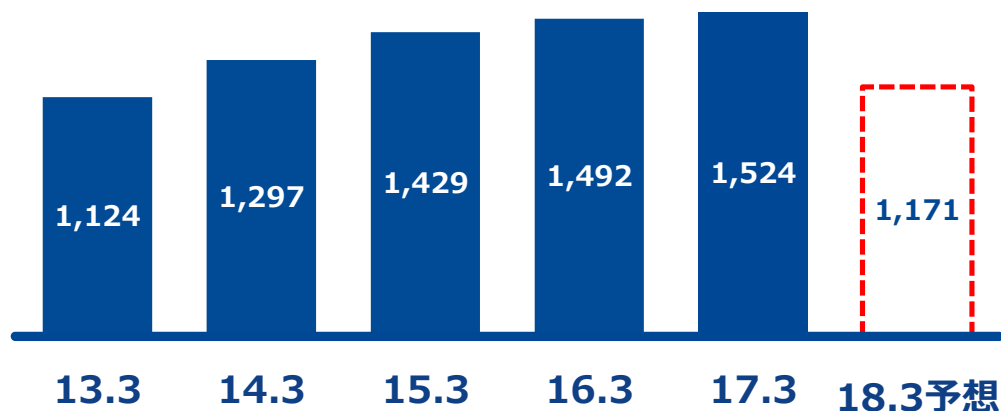


予想売上高 **383**億円

(前期比**8.8%**増)

- ✓ 連続増収を継続
- ✓ 不整脈事業の営業力強化・エリア拡大と虚血事業の独自商品の販売拡大に注力
- ✓ 不整脈事業：前期比37.6億円（12.9%）増
- ✓ 虚血事業：前期比7.3億円（15.3%）減

営業利益 (単位：百万円)



予想営業利益 **11.71**億円

(前期比**23.2%**減)

- ✓ 想定為替レートは112円／ドル
- ✓ 1円の円安は年間約900万円の減益要因

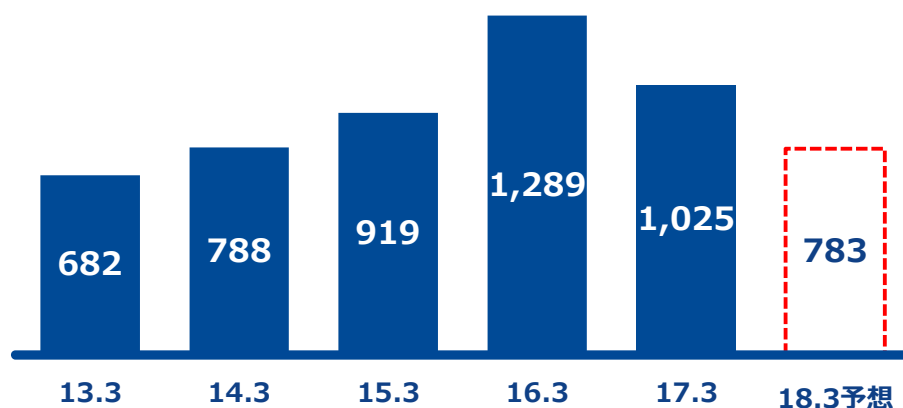
減益要因

- ✓ 自動造影剤注入装置の独占販売契約終了による利益の減少。
(2017年3月期実績：売上高18.7億円)

2018年3月期 業績予想

DVx ディーブイエックス株式会社

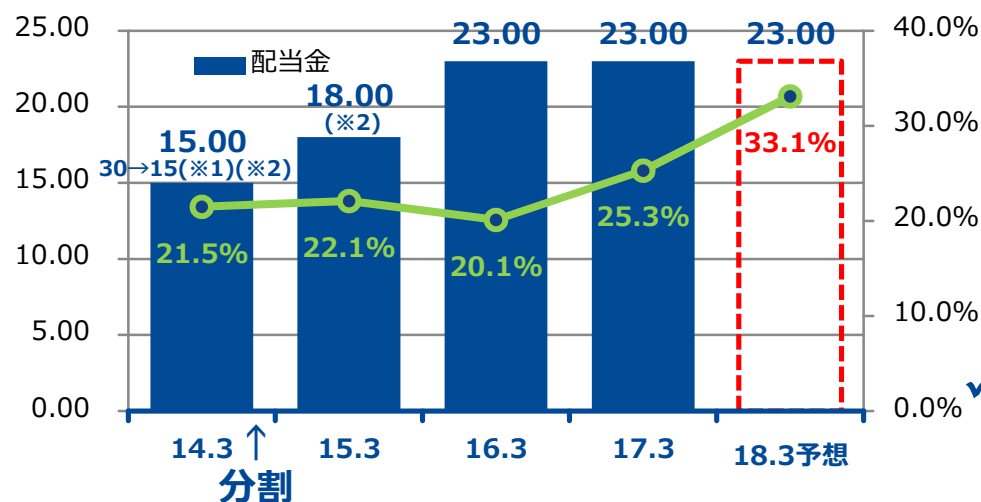
当期純利益 (単位：百万円)



予想当期純利益 **7.83億円**

(前期比 **23.5%** 減)

予想EPS **69.5円**
(前期実績**90.98円**)



予想期末配当 **23円**

(予想配当性向 **33.1%**)

✓ 2018年3月期より

配当性向 **30%** に基本方針変更

※1 2014年4月1日に実施した1:2株式分割の影響を考慮
※2 2014年3月期および2015年3月期には記念配当1円を含む

4. 取組み

取組み

自動造影剤注入装置に関する契約終了の影響を 3期で回復することを目指す。

2018年3月期の取組み

自社開発医療機器への取組み

- ✓ 研究開発活動強化により製品開発を加速

不整脈事業の全国展開への取組み

- ✓ 新規顧客の獲得・エリア拡大を継続
- ✓ 人材の確保と教育の強化

利益率改善への取組み

- ✓ メーカーとの協力関係強化

新規商品ラインナップ追加への取組み

- ✓ 画像マネジメントシステム販売開始など



Development
Venture
X (無限の可能性)

■ I R についてのお問い合わせ先 経営管理課



TEL : 03-5985-6827 FAX : 03-5985-6106 U R L <http://www.dvx.jp/>

本資料はディーバイエックス株式会社の理解を促す参考に資するため、作成したものであり、本資料に記載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。